

## パロマガス瞬間給湯器 屋外用壁掛型

品名 PH-241CWH・PH-241CWG・PH-241CWH A

品名に「L」がついたものはBL認定部品です。

### \*工事される方へ\*

- 本機器は、長期間で使用されますとそれに伴い生ずる劣化（経年劣化）により安全上支障が生じ、生命または身体に対して危害を及ぼすおそれがあります。機器本体正面に貼付けられている銘板に表示してある点検期間中に点検を受けていただくことをお勧めしています。  
この機器を引き渡しする際、所有者に対し点検期間中に点検をお勧めするために同梱されている所有者票にて機器の所有者登録をしていただくよう説明をお願いします。
- 工事される方や、使用される方への危害、財産への損害を未然に防ぐため、以下の絵表示がしてあります。内容をよくご理解いただいたから工事を行ってください。

**警告** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

**注意** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容は次の絵表示がしてあります。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

### 警告

この機器を正しく安全に設置していただくため、この設置工事説明書をよくお読みになって指定された工事を行ってください。本書に記載以外の設置が原因で生じた事故等は保証期間内であっても保証の対象となりませんので、ご注意ください。

### 注意

工事内容に応じた安全策（安全靴、安全帽、手袋の着用等）を講じて作業を行ってください。

- ガス機器の設置基準及び実務指針〔一般財団法人 日本ガス機器検査協会刊〕もあわせてお読みください。工事が終わりましたら、本書は必ずお客様にお渡しください。

## 1 同梱包部品の確認

次の部品が付属部品として同梱されています。不足のないことを確認してください。

部品名	形状	個数	部品名	形状	個数
木ねじ (φ4.8×38)		5	小ねじ (M5×12)	 (パイプシャフト取付用)	3
プラグ (フィッシャー製) SX6×30		5	取扱説明書 工事説明書		各1
平座金	 φ5	4	所有者票 お願いチラシ 個人情報保護シール		各1

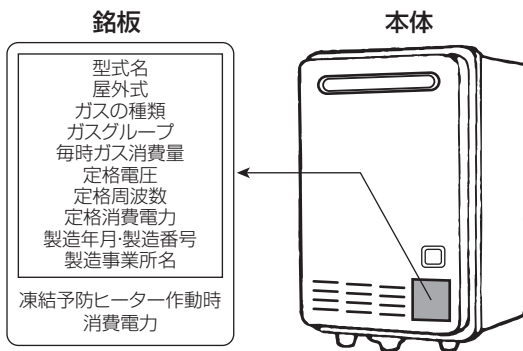


31460890003

## 2 設置前のご確認

### ⚠ 警告

- 本機器には本体全面右下に貼付の銘板に表示してあるガス種及び、電源で使用してください。ガス種や電源が異なると、火災になったり機器が破損しますので取付けないでください。
- ③ 設置場所の確認**の各項目確認事項は満たされているか確認してください。
- 本機器は屋外壁掛式の給湯器です。屋内には絶対設置しないでください。不完全燃焼や一酸化炭素中毒などの原因となります。
- 機器の設置は火災予防条例及び建築基準法に従って行ってください。火災や一酸化炭素中毒の原因となることがあります。
- ガス配管は金属配管又は強化ガスホースとし、ゴム管使用しないでください。劣化や損傷によりガス漏れや火災の原因となります。
- LPガス調整器は低圧用調整器を使用し、供給ガス圧を2.8kPa (280mm/H<sub>2</sub>O) に調整して使用してください。調整圧が異なると、給湯能力不足、着火不具合又は不完全燃焼の原因となることがあります。
- 工業用の中高圧の調整器は使用しないでください。使用しますと、ガス漏れや火災の原因となったり機器が破損することがあります。
- 機器排気口の前方、上方、側方が可燃物との離隔距離以上であっても排気熱により変形、変色等不具合を生じるものは、離して設置するか、防熱板で保護してください。
- 排気ガスが直接建物の外壁や窓・ガラス・網戸・雨戸・アルミサッシなどに当たらないように設置してください。破損や変色や腐食等の原因になります。又、排気ガスが当たって困るもの(植木・ベット・耐熱性の低い樹脂など)の周囲には設置しないでください。動植物への危害の原因になります。
- 配管材料は水道局の承認品か検査合格品を使用してください。飲用に適さなかったり、水漏れの原因になることがあります。
- 温泉水や井戸水・地下水は使わないでください。水質によっては、機器の破損および水漏れの原因となります。この場合は保証期間内でも有料修理になります。
- 別売部品のリモコンを使用せず、恒温タイプとして使用する場合、給湯栓には混合水栓を使用してください。機器から約60℃(工場出荷時の設定温度)の熱い湯が出るため火傷の恐れがあります。
- 本機器は家庭用です。業務用には使用しないでください。著しく機器の寿命が縮まります。
- 資格が必要な工事について  
給水給湯配管工事...各地の給水条例に従い水道事業者の指定工事店が行ってください。  
電気配線工事.....電気配線は電力会社の指定工事店に依頼してください。  
ガス配管工事.....ガス配管工事は専門の資格技術が必要です。必ず供給業者または、資格を有する設置業者が行ってください。(7ページ参照)



### ガス配管工事・給水配管工事を依頼されるとき

ガス配管工事・給水配管工事が必要なときは、お買い上げの販売店かパロマお客様相談室までご連絡ください。工事をお申しつけのときは、右記のことをお知らせください。

- 品名・器具名(銘板表示のもの)・ガス種
- 工事のご依頼内容
- ご住所・ご氏名・電話番号

工事についてのお問い合わせは

パロマお客様相談室  
**052-824-5145**

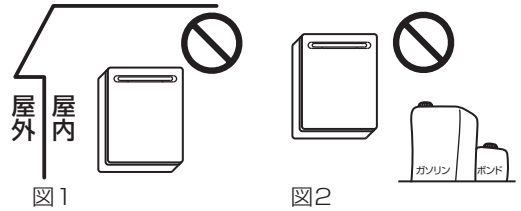
受付時間：平日 8:30~18:00  
(土・日・祝日・弊社指定定休日を除く)

### 3 設置場所の確認

機器を設置するに当たり、建築基準法、ガス事業法、液化石油ガス法、各地の火災予防条例及び電気設備技術基準にあった場所であることを確認してください。

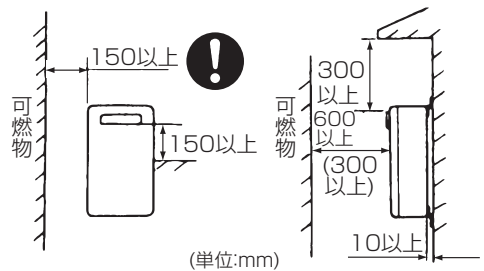
#### ⚠ 警告

- 本機器は屋外壁掛式の給湯器です。屋内には絶対設置しないでください。不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因となります。(図1)
- ガソリン、ベンジン、接着剤など引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。引火して火災になることがあります。(図2)



#### ⚠ 警告

- 火災予防条例により、機器周囲の可燃物より上方は排気出口より300mm以上、側方は機器より150mm以上（防熱板を取付けた場合は45mm以上）後方は10mm以上、前方は600mm以上（防熱板を取付けた場合は300mm以上）離して設置してください。これ以下ですと火災になることがあります。尚、600mm以上前方でも排気熱が直接触れる部分のうち、熱に弱いもの（プラスチック等）や変色しやすいもの（塗装等）には不燃断熱材で保護してください。

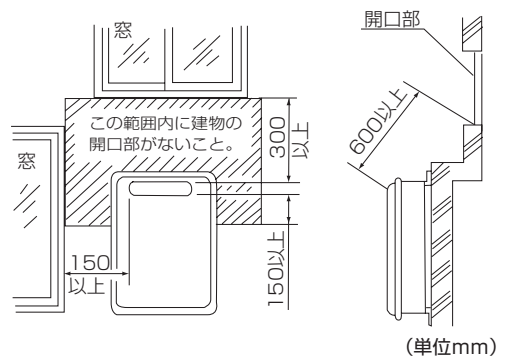


#### ⚠ 注意

- 配管材料は水道局の承認品か検査合格品を使用してください。飲用に適さなかったり、水漏れの原因になることがあります。
- 業務用薬品（アンモニア・塩素・イオウ・エチレン化合物・酸類など）を使用する場所には設置しないでください。(図3)
- 換気扇、レンジフードなどからの風が、機器の給排気に影響を与える場所の設置はしないでください。(図4)
- ガスメーター、電気設備の近くの設置は避けてください。
- 避難口近くに本機器を設置しないでください。
- LPガス調整器は低圧用調整器を使用し、供給ガス圧を2.8kPa(280mmH<sub>2</sub>O)に調整してください。調整圧が異なると、給湯能力不足、着火不具合又は不完全燃焼の原因になることがあります。工業用の中高圧の調整器を使用しますと、ガス漏れや火災の原因となったり、機器が破損することがあります。
- ガス配管は金属配管又は強化ガスホースとし、ゴム管は使用しないでください。劣化や損傷によりガス漏れや火災の原因となります。



- 機器の耐久性を考慮し、雨や雪が直接あたらない場所又いたずらされない場所に設置されることをお勧めします。
- 騒音などで近隣の家に迷惑にならない場所に設置してください。
- 窓のない場所に設置できているか確認してください。もし窓がある場合は、周囲の建物開口部から上方300mm以上、(300mm以内でも実長が600mm以上離れていれば除く。右図参照) 側方は150mm以上離してください。

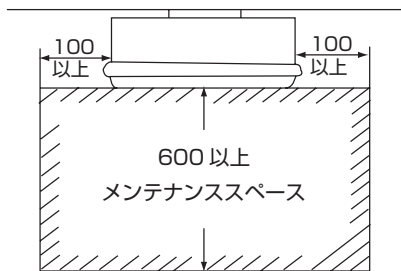


### 【建物開口部とは】

ここでいう建物開口部とは建物に設ける窓、ドアなどで可動し開口するもの（引違い窓、すべり出し窓、開きドアなど）をいい、明り取り用に設けるはめ込み窓、片引き窓の固定されている部分は開口部とはいいません。

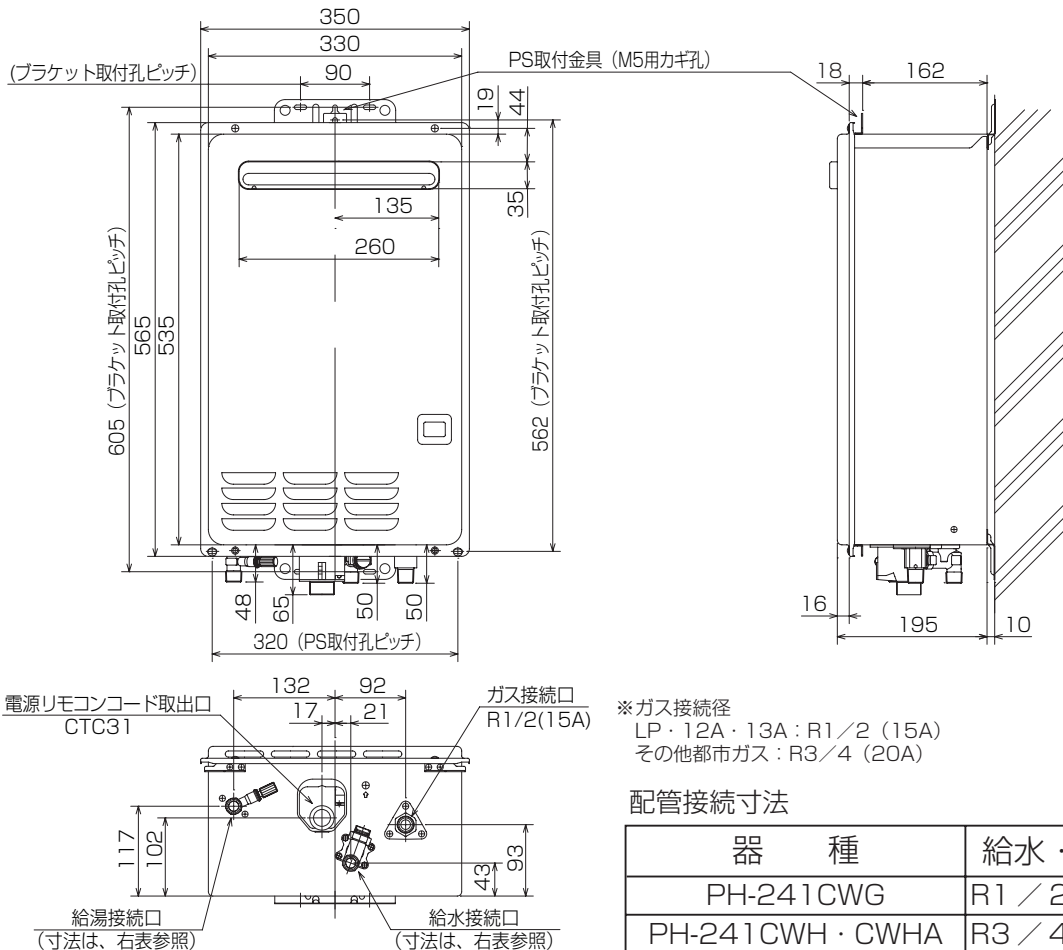
〔注〕特に隣家の窓などにはご注意ください。熱気が入り苦情になることがあります。

- 機器の修理・点検の為、機器の前方は600mm、側方は100mm程度のスペースを設けてください。
- 機器下方にも配管工事や水抜き操作のできるスペースを確保してください。



(単位mm)

## 4 外形寸法図



## 5 機器の設置

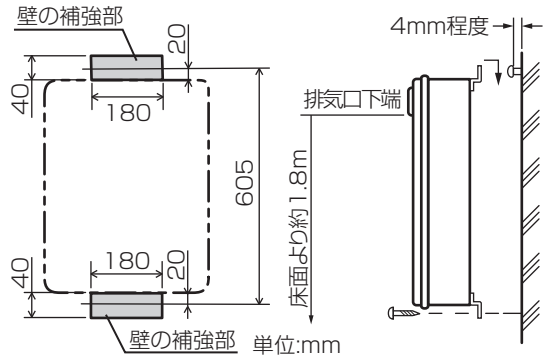
### ■外壁への設置

- 機器を設置する地面、床面、壁は十分な強度が必要です。十分な補強工事がされないと、機器の転倒や落下及び機器運転時の振動による影響が発生するおそれがあります。
- 機器を設置する場合、落下させたり、衝撃を加えたりしないでください。機器内部の部品が破損することがあり危険です。
- 必ず垂直な壁に設置して、堅固に固定してください。
- けが防止のため、手袋を着用し作業を行ってください。
- 穴あけの際は、壁内の電気配線、ガス・水道配管などに注意する。

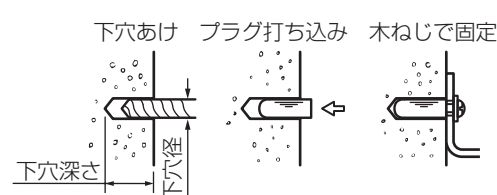


- 取付高さは、機器の排気部が床面より約1.8m位になる位置をおすすめします。
- 避難通路となるベランダに設置する場合は、有効な避難通路幅600mm以上を確保してください。
- この機器は下表の質量です。設置する壁には相応の荷重が加わりますので十分な強度がない、または壁厚が30mm未満の場合は、補強工事を行ってください。

PH-241CWH PH-241CWG PH-241CWH A	18kg ( 満水時の質量 ) 19kg
---------------------------------------	----------------------------



- 機器は下表の固定方法で壁に固定してください。

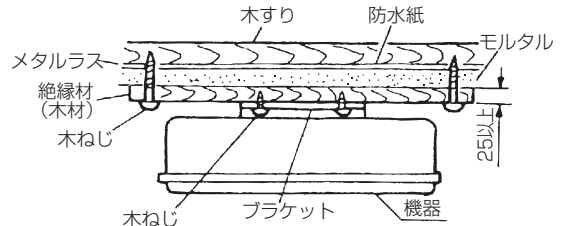
壁材	固定方法
木造	木ねじφ4.8 × 38mm (同梱部品) 5本で固定。有効打ち込み深さ15mm以上が必要です。
コンクリートブロックなど 上記以外	プラグ (同梱部品) を打ち込み、木ねじφ4.8 × 38mm (同梱部品) 5本で固定。 プラグ下穴は、径φ6、深さ40mm以上にしてください。 下穴加工後の切粉は除去してください。 

※機器に別売部品を組み付けて設置する場合には、壁に機器の満水時の質量と別売部品の質量の合計が加わります。別売部品の質量については別売部品の取付説明書を確認してください。別売部品を組み付けた際も、機器は上記方法で固定してください。

※据置台、据置架台を使用し、据置設置をする場合は、機器の固定方法が異なりますので据置台の取付説明書に従って機器を固定してください。

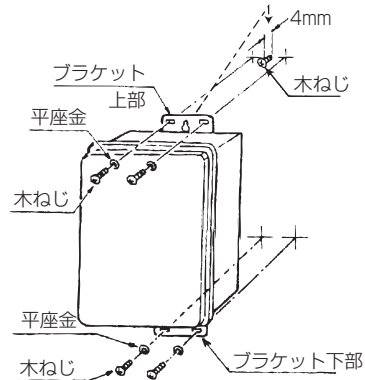
#### ●木造軸組工法の場合

メタルラス張りなどの壁に機器を取付ける場合は、機器とメタルラスとは電氣的に接触しないように右図のような壁工事をしてください。(電気設備技術基準182条により義務づけられています。)



#### ●本体の取付け

- ①機器の取付け用の木ねじ1本を、壁面より4mm程度の間隙をあけてねじ込んでください。
- ②取付けた木ねじに上部ブラケットを引掛けてください。
- ③下部ブラケットの左右の穴に木ねじ2本を、平座金を入れて固定してください。
- ④上部ブラケットの左右の穴に木ねじ2本を、平座金を入れて固定してください。





## ■パイプシャフト設置

### ●有効廊下幅

共有廊下のある集合住宅の廊下幅は有効で1.2m以上確保することが必要です。機器突出し部を見込んだ廊下幅であることをご確認願います。

### ●廊下の開口部（右図※印部参照）

機器の排気吹出し方向は水平のため、給排気に必要な廊下の開口部（※）は、下記の値で計算してください。

器種	区別	横幅	有効面積
PH-241CWG		1.36m/ 台以上	2.04m <sup>2</sup> / 台以上
PH-241CWH			
PH-241CWH A			

### ●排気吹出し口位置

本体の排気吹出し口下端が廊下床面から1.8m程度になるように設置用金枠を設定してください。

### ●換気口の面積

設置用金枠扉の上下には、各々100cm<sup>2</sup>程度の換気口を設けてください。地域によっては換気口の大きさをパイプシャフト正面の面積の5%または500cm<sup>2</sup>の大きい方というように、別に規定している自治体もあります。

当該地域の火災予防上の基準をご確認願います。

### ●防火対策

①パイプシャフトと住戸とは防火構造で区画してください。また共用廊下に面する扉は板厚0.8mm以上としてください。またスリーブ等の孔埋めに対しては不燃材にてコーキングしてください。

②パイプシャフト内設置については、当該地域の火災予防上の基準や、水道事業者の基準に従ってください。

### ●機器の設置用取付け金枠

右図のようなパイプシャフト金枠を別途準備してください。金枠のM5ねじ部の厚さは1.6mm以上としてください。設置場所に合わせた工事が必要です。

### ●機器のパイプシャフトへの取付け

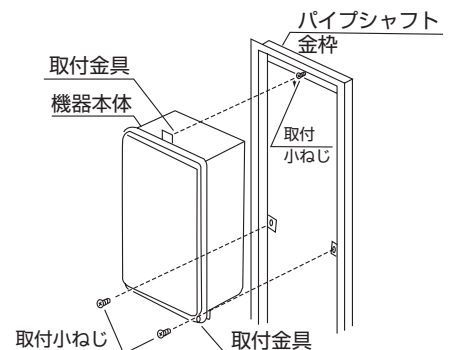
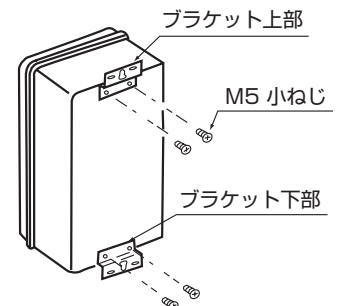
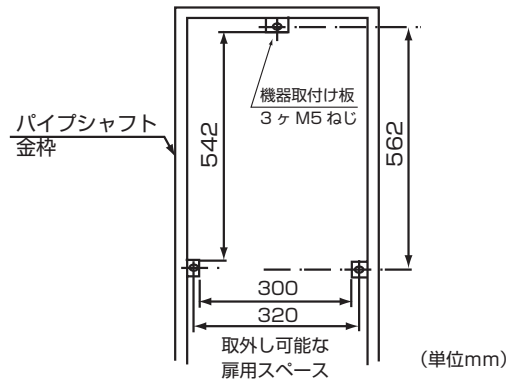
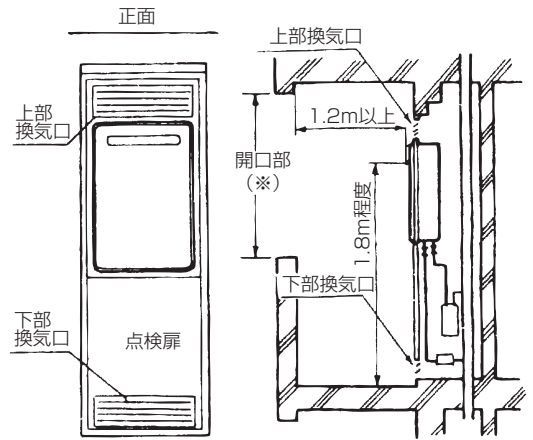
①パイプシャフトドアへの取付ける場合には、ブラケットは不要になりますので、取外してください。取外し方は機器の背面側からM5小ねじ2個ずつをとってブラケットを取外してください。なお、ブラケットを取外したあとの穴には再度M5小ねじをしっかり取付けてください。

※機器本体がパイプシャフト内に入る部分は気密性が保たれ、機器内部とパイプシャフトの間にしきりがなされる必要があるため。

②パイプシャフト金枠の上部に取付小ねじ4mm程度隙間をあけてねじ込んでください。

③機器上部の取付金具の穴を②で取付けた小ねじに引掛けてください。

④機器本体下方の取付金具（2カ所）の穴をパイプシャフト取付金具に合わせて取付小ねじで固定し、その後、上方の取付小ねじを締めてください。



## 6 ガス、給水・給湯配管工事

### ■ガス配管工事

#### ⚠ 警告

■ガス配管の接続および取り外しには、専門の資格・技術が必要です。

ガス配管接続工事については、ガス供給事業者の指示に従ってください。

・都市ガスの場合、金属管・金属可とう管・強化ガスホースまたは機器接続ガス栓を用いてガス機器を接続する工事は、供給元のガス事業者がその技能を認めた者が行ってください。

専門の資格には、GSS（ガス機器設置スペシャリスト）・ガス可とう管接続工事監督者・簡易内管施工士・内管工事士があります。

・LPガスの場合、金属管・金属フレキシブルホースまたは機器接続ガス栓を用いてガス機器を接続する工事は、液化石油ガス設備士の資格が必要です。

なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

#### ⚠ 警告

●ガス配管と機器の接続口は中心を合せて接続する。又、締付時は機器の六角部にもスパナを掛け、本体に無理な力が加わらないようにする。

1) ガスの配管は強化ガスホース又は金属配管とし、ゴム管は使用しないでください。ガス接続径は右表の通りです。

2) 配管径は機器の接続径以下にしないでください。

●ガス接続元には専用のガス栓を取付けてください。

●機器とガス配管接続部には必ずユニオンを取付けてください。

●ガスメーターは他の燃焼機器と同時に使用しても、機器に十分ガスが供給できるガスメーターをお取付けください。

●機器は多量のガスを燃焼しますのでLPガスの容器はできるだけ大型容器を設けてください。

機器を長時間連続使用される時や、あるいは他の機器と同時使用の場合には、増加してください。LPガス容器は、機器から2m以上離して設置してください。

ガス配管接続径	
LP・12A・13A	R1 / 2 (15A)
その他都市ガス	R3 / 4 (20A)

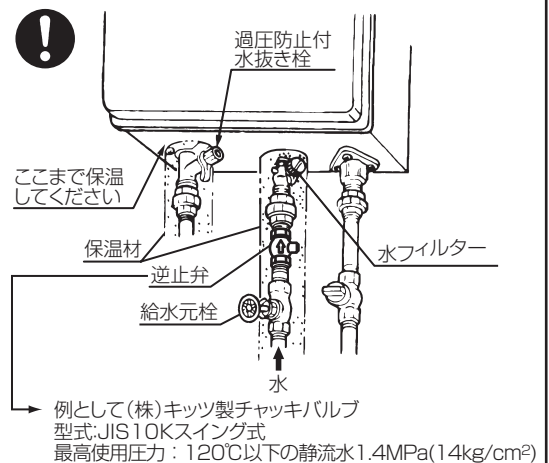
### ■給水・給湯配管工事

#### ⚠ 注意

●給水元栓の先に逆止弁を取付けて、機器から給水元栓までの間は金属配管としてください。給水管が塩化ビニル管の場合、以上を守りませんと塩化ビニル管が破損し、水漏れになることがあります。

●給水・給湯配管は、保温材で機器のつけ根まで被覆してください。又、保温材では不十分な寒冷地は、電気ヒーターなどで凍結予防を行ってください。尚、水抜き栓を保温材で包み込まないでください。凍結予防を行いませんと、配管内の水が凍結し、機器が破損したり、水漏れの原因になることがあります。

●給水・給湯配管と機器の接続口の中心を合せて接続してください。又締付け時は機器にもスパナを掛け、機器に無理な力が加わらないようにしてください。水漏れしたり、機器が破損することがあります。



●給水・給湯配管接続径は機器の接続径以下にしないでください。

●機器を快適に使用するため、供給水圧は80kPa (0.8kg/cm<sup>2</sup>) 以上としてください。

供給水圧が1000kPa (10kg/cm<sup>2</sup>) 以上の場合は、減圧弁等を使用して1000kPa(10kg/cm<sup>2</sup>)以下でご使用ください。

●給水接続口には必ず給水元栓を取付けてください。給湯接続口にも止水栓を取付けると保守点検に便利です。

●給水管と給湯管の接続を間違えないように接続してください。間違えますと、機器が作動しません。

●供給水圧について

実際に給水給湯配管をした全体の必要水圧は、機器単体の必要水圧 (80kPa=0.8kg/cm<sup>2</sup>) に配管や給湯栓、シャワー等の抵抗を プラスした値になります。この時の通過水量は最大水量で計算します。

●階上まで配管する場合の抵抗

階下に機器を取付け階上まで給湯する場合は、配管の長さによる抵抗とは別に高さ1mにつき10kPa(0.1kg/cm<sup>2</sup>)以上の作動水圧が必要になってきます。

垂直の高さの計り方は、機器の水側本体の位置から階上の給湯栓までです。

※機器を快適に使用するため、供給水圧 80kPa(0.8kg/cm<sup>2</sup>) 以上としてください。供給水圧が1000kPa(10kg/cm<sup>2</sup>)以上の場合、減圧弁等を使用して1000kPa(10kg/cm<sup>2</sup>)以下でご利用してください。

●給水配管と機器とを接続する前に、給水元栓をあけて、給水配管内のゴミ・砂を流し出してください。そして接続後、通水テストを必ず行い、給水元栓をしめてから水フィルターを掃除してください。

●給水・給湯配管径は下記の通りです。

PH-241CWG	R1/2(15A)
PH-241CWH・CWH A	R3/4(20A)

●給湯配管はできるだけ短距離に配管してください。給湯管が長くなれば、それだけお湯の出始めが遅くなります。

●保温工事をしてください。お湯が給湯管内を通過するときには、どうしても温度が下がります。断続的に機器を使用するときには、給湯管内のお湯がさめていて、給湯栓を開けてもすぐお湯が出ませんし、凍結予防からも保温材で機器出口部まで被覆してください。尚、水抜き栓を保温材で包み込まないでください。

●給湯配管には温度と圧力が加わりますので、鉛管、塩化ビニル管等は、使用しないでください。脱酸銅管又は、ステンレス管をおすすめします。

●2ヶ所以上で同時にお湯を使用するとき、給湯配管の方法、給湯栓の開き具合によって、それぞれの給湯栓からのお湯の量が異なることがありますので、十分ご検討のうえ設置してください。

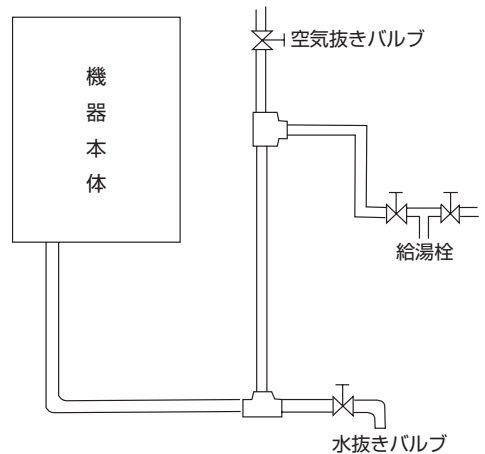
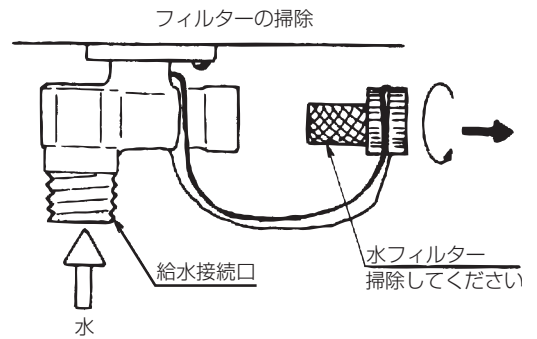
●水抜き時、完全に排水できるような状態に配管してください。冬期給湯配管内の水が凍結しますと、氷が溶けるまで機器が使用できません。

機器の取付け位置より、給湯栓が高い位置に取付けられるときは、給湯配管の最下部に水抜き用のバルブ(蛇口)等を取付け、完全に排水できるように処理をしてください。

●空気ダマリのできないように工事をしてください。やむを得ない時には配管途中の最高部に空気抜きバルブ等を取付けてください。

●給湯栓より白いお湯がでることがあります。これは水中の空気が気泡となって、お湯と混合して出るための現象です。勿論人体には無害です。供給水圧が高いときや給湯栓の開度が十分でないときと白濁します。

必要水圧	≥	機器の必要水圧 80kPa (0.8kg / cm <sup>2</sup> )
	+	給湯配管抵抗
	+	給湯栓やシャワー等の抵抗
	+	高さ 1m につき 10kPa (0.1kg/cm <sup>2</sup> )
	+	余裕圧力

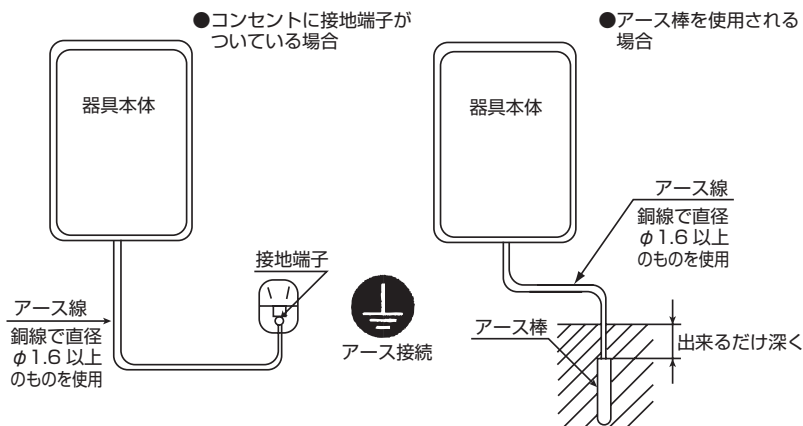
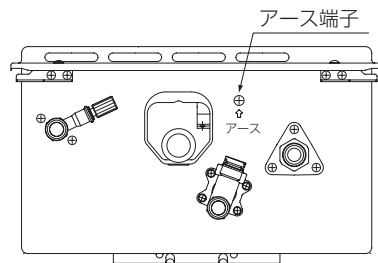




## 7 電気配線工事

### ⚠ 注意

- アース工事は、電気工事士の有資格者がD種接地工事を行うよう法令で定められていますので、必ず行ってください。行いませんと、故障や漏電の時に感電することがあります。
- 電源コンセントがアース端子付コンセントの場合は、機器本体にアース端子がありますので、別売部品のアース線又は、市販のアース線で接続してください。（このアース線接続は、電気工事士の資格は不要です。）
- 万一の漏電に対し、安全確保のため、漏電遮断器の設置をおすすめします。尚、主幹に漏電遮断器が設けてある場合は、新たに漏電遮断器を設ける必要はありません。



- 電気配線類は、凍結予防ヒーター（白い硝子の物）及び金具に接触しないようにしてください。リモコンケーブル及び電源コードが余った場合は機器外でまとめ、機器内には入れないでください。電気配線類が凍結予防ヒーターに接触していると、ヒーターの通電時に配線類が焼損し漏電を起こしたり、機器が故障したりします。

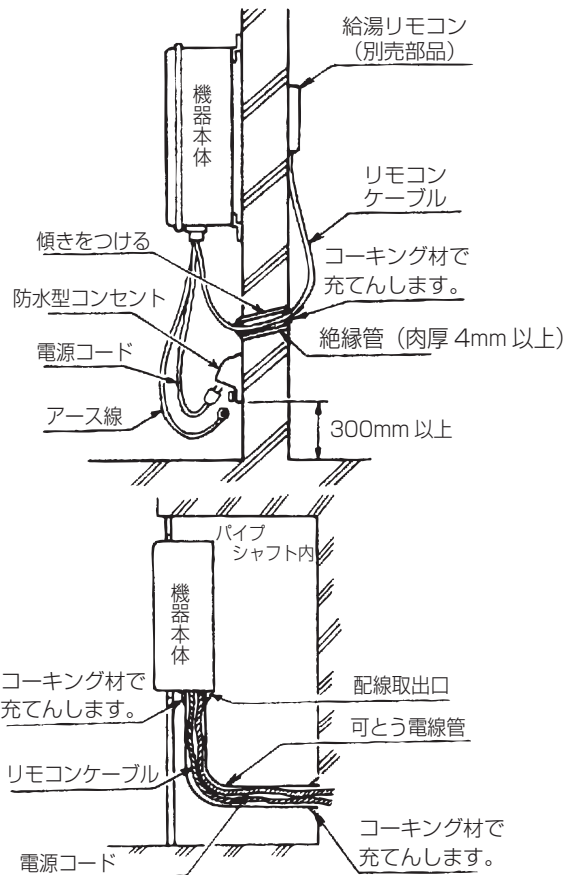
- 電源コードの長さは1.5mです。

### ■屋外壁掛設置の配線工事

- 電源コンセントはアース端子付防水型コンセントとし、地上より300mm以上の高さに設けてください。
  - コンセントは排気にあたる位置、水抜き栓からの水があたる位置への設置はしないでください。
  - ガス管・給水給湯管と、電源コード・リモコンケーブルは接触しないように設置してください。
  - リモコンケーブルが外壁を貫通する場合は、雨水浸入防止材を使用する等の防水処理を行ってください。
- ※リモコンケーブルは別売部品のリモコンを取付けた場合に使用します。

## ■パイプシャフト設置の配線工事

- 電源用電線（AC100V）は必ずVVRまたはVVF（市販品）を使用してください。
  - 電源コード、リモコンケーブルはパイプシャフト内では可とう電線管で保護してください。
  - 電源コード、リモコンケーブルが機器から出る所および室内側へ入る可とう電線管の出口はコーキング材を充てんして密封してください。
  - パイプシャフト内では防爆構造の配線用ボックス以外は使用しないでください。
  - パイプシャフト内に機器の電源配線、リモコン配線を行う場合は電気設備に関する技術基準を定める省令に準じた防爆工事を行ってください。
- ※パイプシャフトの電気設備の設置基準は各所轄消防署によっても異なりますので、各所轄消防署の指導に従ってください。



## ■湯温設定

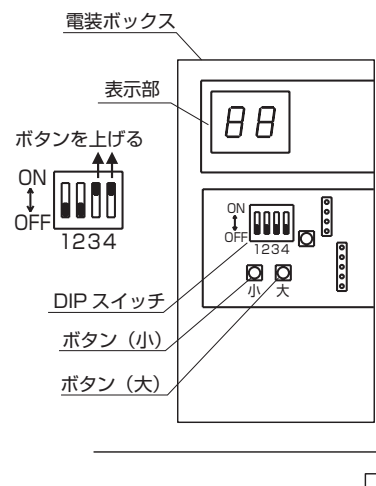
### ●湯温設定の変更

リモコンを取り付けずに使用する場合、機器の出湯温度は出荷時「60℃」に設定してあります。湯温設定は、以下の方法で「42℃」又は、「65℃」に変更できます。

### ⚠ 注意

リモコン接続時は、湯温設定を「42℃」にすることをおすすめします。「60℃」又は「65℃」のままですと、リモコン不通時（コード断線等）に機器が停止し、電源プラグの抜き差しで復帰させた場合に、機器設定の出湯温度となり、やけどの恐れがあります。

- (1) 機器のフロントカバーを外し、電装ボックスのDIPスイッチのボタン3、4を上げてください。表示部に現在の設定温度が表示されます。
  - (2) DIPスイッチの下のボタン「小」（下げる）、又は「大」（上げる）を押して表示部の設定温度をご希望の温度に変えてください。
  - (3) DIPスイッチのボタン3、4を下に下げると、表示部の設定温度表示が消え、設定完了です。
- (注) DIPスイッチのボタン3、4は、外壁及びPS標準設置では、下へ下げておきますが、他の設置仕様では異なる場合があります。設置仕様に合わせて調整してください。



## ■リモコン（別売部品）の接続（リモコンを使用されない場合は、この工事は不要です。）

●別売部品の給湯リモコン及びシャワーリモコンを接続する場合は、別売部品のリモコンケーブルを使用し、以下の手順に従い本機に接続してください。尚、リモコン側の接続とリモコン自身の取付けは、リモコンに同梱の工事説明書に従ってください。

(注) リモコンケーブルを機器本体に接続時は、機器本体の電源（AC 100V）を抜いた状態で行ってください。

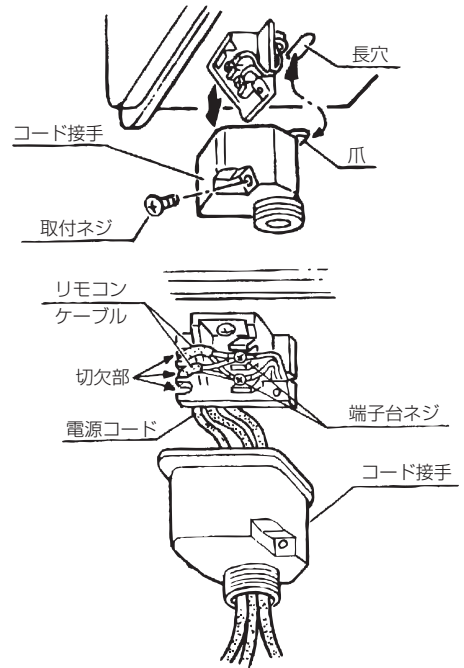
1) 機器下面のコード接手の取付ネジ（1本）を外し、コード接手を取外してください。（右図参照）

2) リモコンケーブルをコード接手の穴に通し、リモコンケーブルの端子（2ヶ）を端子台ねじ（2ヶ）にそれぞれ取り付けてください。

※リモコンケーブルは、色指定のない無極性です。リモコンを2台取り付ける場合は、リモコンケーブルの端子を端子台ねじ（2ヶ）に、それぞれ重ねて（右図参照）、取付けてください。

3) リモコンケーブルを端子台の切欠部に右図のようにはめ込んでから、コード接手の爪を機器下面の長穴に差し込み、取付けネジ（1本）で取り付けてください。

(注) 各ケーブルは、必ず端子台の切欠部に差し込んでから、コード接手を取り付けてください。差し込みませんと、ケーブルが引っ張られた時に、端子部で断線したり、接触不良となることがあります。



## 8 設置工事後の点検

設置工事が終わりましたら、次の各項目をもう一度確認してください。

### ●チェックリスト

点検項目	点検内容	参照項目	チェック
機器の適合	銘板（ガス、電源）は使用するガス種・電源（電圧、周波数）とは適合していますか。	〔2〕	
機器及びその周辺	可燃物との隔離距離及び火災予防上の措置は十分ですか。	〔3〕	
	保守・管理上の空間は確保されていますか。	〔3〕	
	機器の設置場所近くに危険物・腐食性薬品はありませんか。	〔3〕	
	指示された隔離距離が保たれていますか。	〔3〕	
	機器は水平・安定に設置されていますか。	〔5〕	
電気工事	機器は堅固に取り付けられていますか。	〔5〕	
	機器と建物の絶縁はされていますか。	〔5〕	
	アース線の接続は確実ですか。	〔7〕	
給水・給湯・配管工事	防水タイプのコンセントが使用されていますか。	〔7〕	
	給水圧は十分ですか。	〔6〕	
	適正な材料が使用されていますか。	〔6〕	
	接続部の水漏れはありませんか。	〔6〕	
	保温工事はしてありますか。	〔6〕	
ガス配管工事	水フィルターにゴミ等は詰まっていますか。	〔6〕	
	配管径は規定寸法より細くない事を確認してください。	〔6〕	
	本体とガス配管接続部はユニオン接続であり、またガス元栓が取り付けられていることを確認してください。	〔6〕	
	ガス通路部分にガス漏れのないことを確認してください。	〔6〕	

## 9 試運転

※冬期に設置・試運転される場合は、機器内の残水が凍結して通水量が少なくなったり正常に運転しない場合があります。しばらく待ってから再度試運転を行ってください。

1. 取扱説明書に基づき試運転を行ってください。
2. 試運転が終わりましたら、給水元栓・ガス栓を締めてください。

### ⚠ 注意

試運転後、お客様がすぐご使用になる場合を除き、取扱説明書に従い必ず水抜きを行ってください。行いませんと冬期には、凍結して機器が破損したり、水漏れにより被害を及ぼすことがあります。水抜き作業が終わりましたら、電源プラグを抜いてください。

## 10 正常に運転しないとき

### 火がつかない。

電源が入っていますか。  
ガスはきていますか。  
ガスメーターの安全装置（マイコンメータ）が作動していませんか。

機器のフィルタは目詰まりしていませんか。

工事説明書(6) 給水・給湯配管工事を参照してフィルタ、泡沫水栓を掃除してください。

ガス配管のエアー抜きを行っていますか。

機器の運転を繰り返し行いガス配管内のエアーを抜いてください。

ガス圧、水圧は十分ですか。

ガス圧、水圧が十分か確認してください。

### 湯栓をしめてもすぐに消火しない。

給湯、給水配管のエアーを抜きましたか。

電源コードをコンセントから抜き、給湯栓から水を流して配管内のエアーを抜いてください。

以上のことを点検しても、なお異常のある時や、おわかりにならない時は最寄りのパロマの営業所にご連絡ください。電話番号は、取扱説明書を参照ください。

## 11 お客様への取扱説明

1. 取扱説明書によって「必ずお守りください」と「使用方法」を説明してください。
2. 取扱説明書の裏表紙の保証書に必要な事項を記入の上説明し、お客様へお渡しください。

### \* 工事される方へ \*

#### 優良住宅部品認定制度について

- 優良住宅部品（BL認定部品）は、住宅に設置する場所（適用範囲）を設定して認定基準などが規定されています。そのためBL認定部品を適用範囲外で使用される場合には、優良な部品としての性能が発揮できないことがあります。そのために、優良住宅部品認定制度に基づく優良住宅部品（BL認定部品）の適用が受けられなくなります。
- 当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合（瑕疵）が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、BLマークの証紙の貼付（又は刻印等）がされている部品については、一般財団法人ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- BL保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、一般財団法人ベターリビングのホームページ（<http://www.cbl.or.jp/>）をご覧ください。なお、BL保険制度に関する質問は、一般財団法人ベターリビング（TEL03-5211-0559）でもお受け致します。

連絡先	パロマ お客様相談室
住所	名古屋市瑞穂区桃園町6番23号
TEL	(052) 824-5145